

# 『歩く県道・銀山街道』

地域づくりニュース Vol.1

会津若松建設事務所管内の交通不能区間となっている旧街道（銀山街道）について、平成 21 年度から、「歩く県道」として活用するための整備・保全計画の検討を行ってきました。

今年度も街道修繕の実証実験を通じ、地域の活性化に繋げる取り組みについて、地元の方々や関係自治体等と一緒に考えていきます。

## 第 1 回利活用検討会を開催いたしました

平成 25 年 10 月 11 日(金)午後 3 時より 柳津町役場西山支所にて

◆参加者◆ NPOわくわく奥会津.COMと連携団体、昭和村民間団体、銀山街道連絡協議会事務局、東北芸術工科大学、柳津町・昭和村役場、福島県 等合計 16 名

これまでの経緯を振り返り、今年度の実証実験についての工法や作業手順について話し合いを行いました。また街道と沿線の地域資源の利活用について意見交換を行いました。



## 実証実験の施工場所と施工方法の確認

### ◆ 銀山峠について

- 昨年度施工した箇所は、暫定的に横断側溝に板を渡して歩けるようにしている状態。今回は、丸太を組んで棧橋を作り、歩きやすくする。
- 崩落土が堆積することにより道幅が狭くなっている場所は、山側を掘削して道幅を広げ、谷側に丸太土留工を施工して路肩を安定させる。

### ◆ 美女峠について

- 年間を通して水はけが悪くぬかるんでいる場所に、山側側溝と横断側溝を施工し、山からの水を谷に流して水はけを良くする。また、丸太を組んで木橋を作り、沢を渡りやすくする。



銀山峠の昨年度施工箇所の様子

## 銀山街道を活用した地域づくりについて

- 地域の人が、整備した街道をどう活用していくのかについて発意を持つことが大切。地域に主体者が出てくると活気が生まれてくる。
- 3 峠間で中心となる人の相互交流が行われるようになった。また地元の人も行動を起こし始めている。麓を繋げる仕組みを作りバックアップしたい。
- 活動してくれる人を増やす必要がある。また、現在中心となっている人が高齢化しているので、後継者を育成する必要がある。
- 街道の利活用について、各会の代表者だけでなく、会員や地元ボランティアの意見を聞くことも大切。
- 外部から人を呼び込むためにはマップ作成も一つの手段。ポイントとなる物や距離、移動時間が記載され、直感的に現地を理解できるマップがあると訪れる人が出てくる。
- 道普請や伝説・秘話、「美女峠」というネーミング等地域にある物すべてを資源として活用し、地域づくりに繋げていったほうが良い。



銀山峠山跡に残る大煙突



美女峠の頂上

## 「信越トレイル」への視察を予定しています

長野県と新潟県の県境に位置する関田山脈に全長 80 km のロングトレッキングコース「信越トレイル」があります。トレイルを活用して先進的な取り組みを行っており、多くの人々が訪れる場所となっています。

わくわく奥会津.COM 主催により、検討会の参加者を中心に実際に現地に赴いてトレッキングを行い、今後の地域づくりの参考になるように見識を深めてきます。



## 美女峠と銀山峠で、街道修繕の実証実験(道普請)を行いました

交通不能区間となっている銀山街道を整備・利活用し、今後の地域づくりに繋げていくために、街道修繕の実証実験を行いました。

地域の人達やボランティアの参加者でも施工可能な方法を基本とし、資材の運搬や掘削、丸太杭の打設等作業はすべて人力で行い、材料は可能な限り現地にある石や木を利用しました。



### 美女峠で行われた実証実験の様子

◆実施日◆ 平成 25 年 10 月 17 日(木)

◆参加者◆ わくわく奥会津. COM、昭和村民間団体、三島町・昭和村役場、福島県 等 合計 29 名

美女峠山頂から三島町側に約 500m 下りた所に、大変水はけが悪く、年間を通してぬかるみ歩きにくくなっている場所があります。山側を掘削して土側溝を作り、水を沢に導いて流し、ぬかるみの改善を図るとともに、丸太を組んで木橋を作り、沢を渡りやすくする作業を行いました。



ぬかるみに足を取られながら、みんなで土側溝を掘り進めました。



沢を安全に渡れるように、丸太を組んで木橋を作りました。



施工後の現地の様子

土側溝に水が集中して流れ、排水効果が期待できるようになりました。

### 銀山峠で行われた実証実験の様子

◆実施日◆ 平成 25 年 10 月 22 日(火)

◆参加者◆ わくわく奥会津. COM、昭和村民間団体、柳津町役場、福島県 等 合計 26 名

昨年度施工した場所は、側溝が機能してぬかるみの状態は改善されつつあります。さらに歩きやすくするために横断側溝の上に丸太を組んで栈橋を作りました。また、道幅が狭くなっている所は、山側に堆積している崩落土を掘削して道幅を広げ、谷側に丸太土留工を施工し、掘削した崩落土を充填して路肩を安定させました。



栈橋を作り、すべらないように丸太に角材を取り付けました。



丸太を組んで番線で結束し、土留工を施工しました。



栈橋を設置した現地の様子

安全に歩くことができるようになり、景観的な美しさも加わりました。

土側溝や木橋の延長は、現地の状態を確認して決定しました。また、横断側溝を取り止め、直接沢に水を導くようにするなど、現地の状況を判断して、簡便で効果的な工法に計画を変更したところもありました。作業は試行錯誤の連続でしたが、全員が協力して 2 日間の日程を終了することができました。今後はぬかるみの改善状況や雪の影響等について経過観察を行い、施工方法が適切であったかについての検証も行っていきます。

これからもより多くの人に参加して頂いて道普請を継続していくと同時に、色々な視点からのご意見を伺う事で、地域づくりの活動をさらに広げていきたいと思っております。ご協力をお願いいたします。



発行

福島県 会津若松建設事務所

TEL : 0242-29-5455

企画調査課

FAX : 0242-29-5459